

旭川市労働者賃金等の実態調査（工事）事業者聞き取り調査 主な意見

○賃金等について

- ・賃金は毎年上げている。（多数の事業者）
- ・決算状況に応じて、賞与を職員に出している。
- ・賃金を上げないと離職が起きる。
- ・労働者の給与は上げることはできても下げることは難しい。
- ・毎年度初めに賃金を決定しているので、工事毎で賃金に差を設けることはできない。

○設計労務単価との比較について

- ・市発注の工事と他の公共工事、民間工事で賃金に差を設けるのは困難。
- ・通年雇用している者には冬場も給料を払う。冬場に仕事が切れることを考えるとどうしても設計労務単価を下回る賃金単価になる。
- ・市の仕事が通年で途切れずにあり、100%で落札できるのなら設計労務単価100%も可能かもしれないが、現実的な話ではない。
- ・設計上1.5人工となっても実際には2人出し、1人は昼で帰っていいとはならない。結局1.5人分で2人分支払うことになる。
- ・入札で価格競争していることもあり、設計労務単価は意識しているものの、労働者にはそのとおりに払うということにはならない。
- ・入札に参加するが落とせるとは限らない。会社の維持費もかかる。また、工事が年間通してあるわけではないので、設計労務単価どおりの支払いは無理。

○雇用について

- ・季節雇用者で、希望があれば通年雇用にすることも考えている。
- ・一定年齢までは通年雇用。その年齢を超えると季節雇用としている。

- ・新たに季節雇用となる者はいない。
- ・若い人は通年雇用としている。そうしなければ人が来ない。
- ・季節雇用者は本人に確認しそのようにしている。
- ・季節で切ってしまうと、その労働者は他の会社に行ってしまう。
- ・日雇の者は、以前当社で働いていた職人であり、退職後は、忙しいときなどに都合を聞きながら日給で働いてもらっている。

○労働力について

- ・労働力不足は顕著。外国人労働者を雇うこととした。
- ・人手が足りないので、仕事をお断りすることがある。
- ・肉体労働は人気がない業種である。
- ・業界全体で人手不足を感じる。
- ・週休2日の対応を考えると、外国人の採用を考える必要がある。

○下請について

- ・下請も設計労務単価を意識して見積りを出してくる。
- ・下請から見積りをもらうが、かなり高くなってきている。
- ・下請に出すのも高くなってきており、むしろ下請の方が待遇がいいのではないかと思うほど。
- ・昔は仕事を受けるため、見積りを出すとき自ら下げていた。今は単価も上がり、見積りに反映させやすい。
- ・下請に出す場合、額が低すぎると受けてもらえない。
- ・労務を持っている方は強いので、下請にも相応の額を支払わなければならない。
- ・業界全体として働き手が不足しているので、金額が安いと人を出してもらえない。
- ・下請けに入るときは、元請から必要額をもらっている。
- ・元請に見積りを出して、その金額で契約している。

- ・元請からは法定福利費を含め、費用はみてもらっている。
- ・元請から無理は言われていない。
- ・昔は必要な額を請求してももらえないことが正直あった。
- ・今は元請，下請が対等な立場に立っていると感じている。

○週休 2 日について

- ・日給月給の労働者には週休 2 日は厳しい。
- ・日給制の労働者は働かない分賃金さが下がることになるので、週休 2 日にするなら 1 日分の賃金は保証して欲しいとの声がある。
- ・他の工事の影響で仕事が押してしまうことがあり、週休 2 日は厳しい。
- ・現在は 4 週 6 休である。
- ・将来的な週休 2 日の実施を考えると、人手不足を解消しなければならない。
- ・週休 2 日は取り入れているが、どうしても出勤しなければならないときは割増賃金で対応している
- ・週休 2 日は変形労働時間制で実施。冬は仕事がないので、年間を通して週休 2 日に相当する休みを確保している。

○その他

- ・今は給料，休暇，環境の 3 K が大切。特に若手はどれかが低いと離職してしまい、定着しない。
- ・仕事が少ない時期がある。工事発注の平準化が望まれる。